

第15回消防防災研究講演会 (特別開催) の開催

消防研究センター

平成24年3月15日(木)、東京都墨田区京島の曳舟文化センターにおいて「消防の視点からみた東北地方太平洋沖地震」と題した第15回消防防災研究講演会(特別開催)を開催し(写真1)、420名(内訳:消防機関239、企業123、団体27、官公庁23、その他8)もの方々の参加を得ました(前回と併せると645名)。

この講演会は、去る平成24年1月27日に開催した第15回消防防災研究講演会に対し、定員(約200名)を大幅に上回るお申し込みを頂き、多くの方々に聴講をお断りせざるを得ない状況となりましたことから、追加開催されたものです。

講演内容は前回(消防の動き4月号参照)と同じく、消防庁・消防研究センターが実施してきた「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」による①津波に起因する火災、②危険物施設に係る被害、③消防活動への影響に関する調査結果の報告及び④関西学院大学 室崎益輝教授による特別講演「震災と消防」という構成としました。

聴講者から頂いたアンケートでは、前回と同様に多数(90%)の方々が有意義と回答されました。また、前回と合わせると回答者318名のうち292名(92%)の方々が有意義と回答されました(図1)。具体例(原文通り)を挙げますと、

- ・東日本大震災における津波と原発事故は記憶に残っているが、あらためて火災の大きさ、件数の多さを認識することができました(民間企業)。
- ・東日本大震災時の危険物施設に係る災害について、広く知ることができ、また、調査した生の声を聞くことができ、大変有意義であった(消防関連団体)。
- ・各都道府県や各市町村で防災(震災)計画の見直しを



写真1 講演会の様子(墨田区曳舟文化センターにおいて)

行っているところだと思う。その際に有益な事柄が多くさんあったので参考にしたい(消防職・団員)。

など、本講演会が今後その発生が逼迫している首都直下地震、南海トラフ沿いの巨大地震等への対応を考える一助になったものと考えております。

一方で、講演内容についての今後の希望に関するアンケート回答(原文のまま)では、

- ・研究センターの研究を消防機関でも施策や規定へ反映できればと考えています。更なる情報公開や消防吏員、機関に対する提言等がありましたらよろしくお願いたします(消防職員・団員)。
- ・直接災害現場に向いての調査結果は大変貴重なもの。有効な解析・検討を期待したい(民間企業)。
- ・津波火災の発生メカニズムについての研究成果を期待します(民間企業)。
- ・火災・コンビナート・津波についての調査結果はとても参考になりました。しかし、その結果から今後の震災にどのように反映されるかが課題だと思いました(消防職員・団員)。

など、調査結果の紹介にとどまらず、そこから何が言えるのか、そして対策としてはどのようなことが考えられるか、更なる検討を期待するご意見を賜りました。

消防研究センターでは今般の地震被害については、先ず何が起こったのかをきちんと後世に残すことを主として調査をして参りました。まだ全容把握に至っていないところもありますが、今後は貴重なご意見にしっかりと応えられるよう調査研究を実施していきたいと考えております。

なお、当日配布資料は以下から入手できます。

http://www.fri.go.jp/cgi-bin/hp/index.cgi?ac1=JPP1&ac2=42&ac3=762&Page=hpd_view 第15回消防防災研究講演会資料 [PDF 15.9MB]

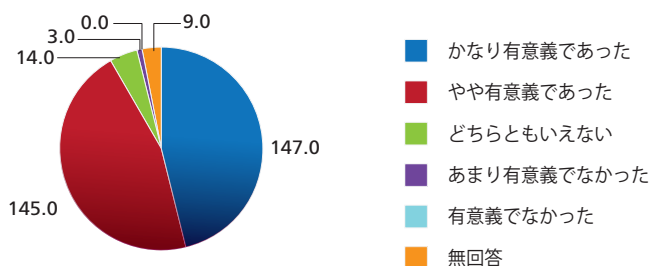


図1 講演会への満足度に関するアンケート(前回と今回を合わせて、N=318)